

# ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ （2021年6月1日放送分・南染師町／南石切町）

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送とあわせてお楽しみください！

- 先月は新型コロナの感染拡大をうけて、またまた1ヶ月お休みを頂いた城下町ボヤージュ。今月から「奥州街道を江戸へ！」シリーズを、元気に再開します。
- 若林区穀町を過ぎ、私達は住所の上では南材木町に入ってきました。私と木村さんは、七郷堀を見下ろす橋の上から水の流れを見ています。田んぼが豊富に水を必要とするこの時期、七郷堀はどうとうと水をたたえて流れています。泳ぎたいなあ。この水は、愛宕橋下流の広瀬川から引いてきたもので、仙台市東部の穀倉地帯で田んぼを潤しています。
- 流れに沿って少し歩くと、マンションの陰に辻標を発見！もう少し、目立つところに立ててほしい…。「南染師町／南石切町」の辻標です。
- 七郷堀の水を利用して、かつては盛んに染物が行なわれていた町。今も古くからの染屋さんが、数は減ったものの営業を続けています。武士を相手にしていた上染師町の染物屋さんが衰退してしまったのとは対照的です（2020年12月1日の放送分参照）。堀を挟んで向かいの小さなお社「愛染明王」にも、「染」という字が入っていたので驚きました。南石切町は、政宗晩年の若林城築城～城下再編に伴い、石材需要の増加からここに石工達を配置したものです。殿様の意向で、元いた場所から引っ越しを余儀なくされる…江戸時代の人達のくらしも、なかなかつらいものがありますね！
- 〈文・佐々木淳吾〉